

## 座光寺村史目次

口 絵

発刊のことば

目 次

凡 例

## 序編 自然環境

## 第一章 座光寺の位置

一、座光寺の名の由来 3

二、行政的な位置 3

三、地理的位置 3

四、座光寺の地形地質 6

(一) 木曾山地 / (二) 飯田盆地 / (三) 扇状地と段丘

五、座光寺山の地名 11

## 第一編 原始・古代

はじめに 15

## 第一章 座光寺の遺跡

## 第一節 座光寺の遺跡の概観

一、上方山地帯の遺跡 16

二、中段段丘上部山麓扇状地の遺跡 16

三、中段段丘扇状地の遺跡 16

四、低位段丘Ⅰの扇状地と尾根状台地の遺跡 20

五、土曾川・南大島川沿いの段丘面の遺跡 20

六、低位段丘Ⅱ一帯の遺跡 20

七、最低位段丘と自然堤防状低地の遺跡 22

八、古墳 22

九、城跡等特殊遺跡 23

十、伊那郡家跡・寂光寺跡 27

## 第二節 座光寺の考古学的調査

一、明治時代以前の調査 27

二、大正時代の調査 27

(一) 鳥居龍蔵博士の現地調査と下伊那の先史及原始時代(図版)の発

刊 / (二) 新井原一二号墳(大塚)の発掘調査 / (三) 畦地一号墳石室

の発掘調査 / (四) 高岡一号墳の形象埴輪発見

三、昭和二十五年ころまでの調査 30

四、昭和二十五年以降の調査 30

## 第三節 座光寺の代表的な遺跡・遺物

一、座光寺の遺跡概観 31

二、旧石器時代の遺跡 34

三、縄文時代の遺跡 34

(一) 草創期・早期の遺跡 / (二) 縄文時代前期の遺跡 / (三) 縄文時

代中期の遺跡 / (四) 縄文時代後期の遺跡 / (五) 縄文時代後期の遺跡

四、弥生時代の遺跡 41

(一) 弥生時代中期の遺跡 / (二) 弥生時代後期の遺跡

五、古墳時代の住居址 51

(一) 古墳時代前期の住居址 / (二) 古墳時代中期・後期の住居址

六、奈良時代の住居址・官衙的な遺構 58

(一) 奈良時代の住居址 / (二) 官衙的な遺構  
七、平安時代の遺跡 59

(一) 田中・倉垣外遺跡の住居址 / (二) 池田遺跡の住居址 / (三) 古

瀬平遺跡の住居址 / (四) 石行遺跡の住居址 / (五) 新井原の火葬墓

八、中世の遺構・遺物 62

(一) 恒川遺跡群の遺構 / (二) 石行遺跡の火葬墓群 / (三) 北本城・

南本城の調査 / (四) 古瀬平の中世遺物 / (五) 如来寺境内の遺物 /

(六) 上野・古市場の遺物

第四節 考古学からみた座光寺の特色 ..... 67

一、旧石器・縄文時代の特色 68

二、弥生時代の遺跡 68

三、古墳時代の大集落 69

四、古墳群と現存古墳 70

(一) 古墳群 / (二) 現存古墳 / (三) 発掘調査された古墳

五、奈良時代の官衙的な遺構 84

六、平安時代の遺跡 84

七、中世の遺構・遺物 85

第二編 古代・中世 ..... 87

第一章 古代 ..... 89

第一節 古代の座光寺 ..... 89

一、伊那郡と麻績郷 89

二、伊那郡家 89

(一) 恒川遺跡群と伊那郡家 / (二) 伊那郡家は恒川地籍にあった

三、寂光寺 109

(一) 日本三代実録にみえる寂光寺 / (二) 寂光寺の所在地 / (三) 古  
瓦出土地 / (四) 寂光寺の推定地

四、東山道 112

(一) 伊那谷の東山道 / (二) 座光寺の通過推定地

第二節 荘園の発達と武士の発生 ..... 117

一、荘園の発達と律令制度の類廃 117

二、名主・武士の発生 117

三、伊那郡の荘園 118

四、農業技術 119

第二章 中世 ..... 120

第一節 概説 ..... 120

一、鎌倉幕府 120

(一) 国司制度 / (二) 知行国(分国)制 / (三) 頼朝の領有地

二、鎌倉時代の信濃国 123

三、守護・地頭の配置 123

(一) 配置 / (二) 守護の権限と任務 / (三) 地頭の任務

四、伊那郡郡戸荘 126

(一) 郡戸荘の領主 / (二) 郡戸荘の位置

第二節 南北朝時代・室町時代の信濃国 ..... 127

一、南北朝の時代 127

(一) 中先代の乱

二、室町時代 128

(一) 大塔の戦 / (二) 結城城の合戦

第三節 上野座光寺氏 ..... 130

一、座光寺氏の出現 130

(一) 大塔の戦と上野座光寺氏 / (二) 結城陣番帳と上野座光寺氏 /

(三) 諏訪上社史料と上野座光寺氏

二、上野座光寺氏の出自 135

(一) 藤沢氏からの分流説 / (二) 神氏系図 / (三) 修補諏訪氏系図 /

(四) 知久氏よりの分流説 / (五) 諏訪十郷日記に表われた神

氏座光寺氏

三、上野城について 139

第四節 宮崎氏について

第五節 戦国期・織田・豊臣期の伊那郡

一、戦国期の伊那 140

(一) 乱世のもと小笠原家の分裂 / (二) 武田氏の伊那郡侵略

二、武田氏治下の座光寺氏 142

(一) 武田氏の家臣団の編成 / (二) 武田氏の領国支配 / (三) 武士団

の結束政策 / (四) 信玄の西上 / (五) 岩村城攻略と落城 / (六) 信玄

没の勝頼

三、織田・豊臣期の伊那郡 151

(一) 織田軍の侵入 / (二) 徳川期の伊那 / (三) 豊臣氏の支配

### 第三編 近世

#### 第一章 支配者と土地制度

第一節 飯田藩主

一、毛利秀頼 161

二、京極高知 161

三、小笠原秀政 162

四、天領時代 162

五、脇坂安元・安政 162

六、堀氏十二代 163

第二節 土地制度

一、秀吉の土地制度の改革と検地 太閤検地 164

二、脇坂侯の総検地 165

三、堀侯の検地 166

(一) 新田開発 / (二) 御見取場(大縄場)見分

四、寛文六年の検地の形式と内容 169

(一) 形式・内容 / (二) 農民の階層

五、原分の検地 172

六、新田検地と永流れ改め 173

(一) 座光寺村の新田検地 / (二) 座光寺村の永流改め

七、新田開発 178

(一) 座光寺村の地形 / (二) 用水路と灌漑面積 / (三) 江戸時代の新

田開発 / (四) 川原地帯の新田開発 / (五) 御見取場の新田開発 / (六)

大門原の開発

第三節 年貢と課役

一、初期の年貢 206

二、中期以後の年貢と課役 206

(一) 定免法による年貢 / (二) 年貢 / (三) 小物成

三、課役と運上 220

(一) 課役 / (二) 運上その他

四、幕府への貢租・課役 222

(一) 国役金 / (二) 国への課役

#### 第二章 村民の構成と支配組織

第一節 村民の構成

一、初期の役百姓 232

二、村役人の変化	233	二、南大島川関係	275
三、五人組	235	(一) 大口井／(二) 日影田井／(三) 観音井／(四) 寺井／(五) 畦地井／(六) 恒川井／(七) 恒川清水井／(八) 高岡井／(九) 高越井	280
四、庄屋の仕事	235	一、土曾川関係	280
五、年貢高からみた農民階層	238	(一) 沢洞井／(二) 宮崎井／(三) 蟹田井／(四) 四反田井／(五) 横井／(六) 正泉井／(七) 井戸水井／(八) 蟹田井・四反田井・正泉井・井戸水井連合堤	290
六、無高・借家・地借者	239	第三節 天龍川による水利	290
第二章 戸数・人口とその移動	239	一、天龍川水系	290
一、宗門改帳	239	第四節 湧水系	292
二、家族構成・人口構成	242	第五節 天龍川の川除	292
三、住民の移動	243	一、元文の川除	292
四、厄介・欠落・勘当・無宿者	245	二、寛政の川除	292
第三章 御触	245	三、石川除	294
第四節 村貫	248	(一) 石川除ができる前／(二) 石川除普請／(三) その後の経過	300
第五節 村方騒動	251	第四章 山林	300
一、文化六年の村方騒動	251	第一節 牛牧村弓矢の沢の借用	301
二、新田をめぐる村騒動	254	第五章 産業	307
三、本田持・新田持の対立	257	第一節 農業	307
四、山手一一組の村騒動	258	一、耕地	307
五、釣頭殴打事件と村騒動の結末	260	二、田の作物	307
六、村騒動の背景	264	三、畑の作物	308
(一) 村柄／(二) 村役人・頭分の偏り／(三) 庄屋役の混乱／(四) 若者一件の落着	264	(一) 雑穀／(二) 野菜	309
第三章 用水井と川除	268	四、肥料	309
第一節 南大島川系用水	268		
一、本沢井関係	268		
(一) 本沢井／(二) 古市場衆との水論／(三) 牛牧村との水論／(四) 分井／(五) 並木沢井／(六) 砂田井／(七) 小寺子井(耕雲寺井)	268		

第二節 商品作物と手工業

一、桑栽培と養蚕 311

(一) 生糸商い / (二) 養種

二、楮と紙漉 314

(一) 座光寺の紙漉 / (二) 御用紙

三、柿 316

四、甘藷(砂糖きび)栽培 317

五、水車並びに水車営業 317

第三節 商業と手工業

一、商業 319

(一) 酒造業 / (二) 瓦焼製造 / (三) 綿打 / (四) 髪結い / (五) 焙

烙焼き / (六) 牛馬売 / (七) 傘・元詰・生糸製造 / (八) 諸職人

第四節 村の金融

一、講 322

(一) 發起無尽(親無尽) / (二) 寄合無尽(親なし無尽) / (三) 無

尽手形 / (四) 無尽一回休み

二、借入金 324

(一) 裏判扣帳

第六章 交通

はじめに 327

第一節 五街道と脇街道

一、五街道 327

二、脇街道(脇往還) 327

三、宿駅制度(伝馬制度) 327

四、路傍の整備 328

(一) 並木 / (二) 一里塚

五、伊那街道 329

第二節 座光寺村と伊那街道

一、二十三屋敷 330

(一) 旅人の世話

二、並木 334

三、一里塚 334

第三節 庶民の旅

第四節 村の交通

一、道路網 337

二、天龍川対岸との交通 337

(一) 阿島渡船の出入

第七章 凶作と飢饉

第一節 天明の飢饉

第二節 天保の飢饉

第三節 慶応の飢饉

第四節 備荒貯穀と困糶

第八章 飯田藩の財政窮乏と農民

第一節 飯田藩の財政

第二節 御定借り

第三節 御用金

一、高割御用金 349

(一) 安永元年上屋敷御類焼御用金 / (二) 文久九年の御用金

二、人差し御用金 350

(一) 文政十一年殿様若年寄役を仰せつかった時の御用金 / (二) 天保三年の御用金 / (三) 天保十一年西丸炎焼御用金

三、御用金返済 352

第四節 年貢増徴

一、年貢の二分増御用 352

第五節 藩主体の無尽講

一、千人講 353

二、鼎足講 356

第六節 商工業よりの上納金

一、連上金 357

(一) 振売札(羅札) / (二) 山方・諸木払運上 / (三) 糸運上 / (四) 楷分一 / (五) 蚕種紙

二、歩銭 358

三、冥加金 358

四、御用金 358

第七節 紙問屋設置

第九章 国学

第一節 伊那谷の和歌

一、江戸時代初期の伊那谷歌人 359

(一) はじめに / (二) 当代の歌人の流れ / (三) 依田梅山 / (四) 可圓律師 / (五) 僧澄月と桃沢夢宅 / (六) 加茂・本居門流 / (七) 福住清風

二、江戸時代後期の伊那谷歌人 360

(一) 平田門尊王歌人の来訪 / (二) 座光寺における平田門の歌人

三、座光寺の和歌 361

(一) 座光寺の和歌 / (二) 座光寺における幕末歌人

第二節 座光寺の俳句

一、江戸時代及びその後の俳諧

二、江戸時代及びその後の俳諧

三、江戸時代及びその後の俳諧

(一) 江戸時代の俳諧と伊那谷 / (二) 座光寺の俳諧

二、座光寺の句碑 363

(一) 蕉雨塚 / (二) 日夏耿之介句碑と櫛原勇一

第三節 平田学の隆盛

一、国学の発達 364

二、下伊那の国学 365

(一) 学問としての国学時代 / (二) 尊王思想としての平田学 / (三) 平田学の趨勢

三、座光寺村平田門人と業績 367

(一) 「弘仁曆連記考」の上木 / (二) 「古史伝」の上木 / (三) 水戸浪士間道案内 / (四) 平田篤胤稿本の保管 / (五) 平田家京都引越しの手伝い / (六) 山吹の本学神社創建

四、飯田藩の平田学への対応 370

一、尊王論の流行 370

二、志士の潜入 371

第四節 幕末勤王家の運動

一、尊王論の流行 370

二、志士の潜入 371

(一) 角田忠行 / (二) 長谷川鉄之進

三、松尾多勢子の活動 371

第十章 明治維新と農村

第一節 海岸防備と冥加金など

第二節 水戸浪士軍の通行

第三節 維新の動乱と夫役出動

一、長州征伐不参の事情 379

二、大坂警備役の負担 379

三、東山道総督軍への出役 380

第四節 官軍先鋒隊の伊那谷通過

第五節 物価騰貴と世直し一揆……………382

第六節 二分金騒動……………385

第十一章 社 寺……………388

第一節 神社と寺院一覽……………388

第二節 神社……………391

- 一、麻績神社 391
- 二、嶋三社 394
- 三、古賀比神社 395

第三節 寺 院……………395

- 一、座光如来寺 395
- (一) 寺号と起源 / (二) 如来堂の時代 / (三) 如来寺の時代
- 二、種月山耕雲寺 404
- (一) 開山と世代 / (二) 江戸時代初期の耕運寺 / (三) 江戸時代中期以降の耕雲寺

- 三、宗安院 411
- (一) 宗安院の開創

- 四、水月庵(観音堂) 412

第十二章 信仰と娯楽・文化財……………413

第一節 講 社……………413

- 一、伊勢講 413
- 二、諏訪太々講 415

第二節 娯楽・芸能……………415

- 一、祭典芸能 415
- 二、その他の娯楽芸能 416
- 三、八幡宮(麻績神社)獅子舞の記録 418

- (一) 発祥年代 / (二) 幕末の中断 / (三) 明治二十四年の中断 / (四) 明治三十三年再復活

第三節 座光寺の文化財……………419

第四編 近 代……………427

第一章 明治前半の地方行政と座光寺……………429

第一節 地方行政機構の変遷……………429

- 一、府県藩三治制・廃藩置県 429
  - 二、戸籍区の設定と戸籍調べ 429
  - 三、新しい区制と戸長制度 431
  - 四、大区小区制と官選の戸長 431
  - 五、第一次上郷村の誕生 432
  - 六、長野・筑摩両県合併と郡政施行 435
  - (一) 村費の性格 / (二) 伍長会・惣代伍長会
  - 七、座光寺村ほか三か村に分離 436
  - 八、最初の村会議員選挙 439
  - 九、四か村連合戸長役場設置 441
- 第二節 地租改正……………442
- 一、古い形の貢租——明治七年まで 442
  - 二、地租改正作業の経過 444
  - (一) 壬申地券交付のための一筆調査 / (二) 地租改正法公布後の地価調査 / (三) 官定地価の押し付け
  - 三、地価修正運動の展開 448
  - 四、地租改正の費用——農民負担 453

第三節 開 産 社……………454

第二章 町村制施行以後の座光寺村の政治

第一節 第三次座光寺村の成立

- 一、成立の経過 455
- 二、村会議員の選挙 456
- 三、村長・村会議長の選出 458
- 四、新村の組織と性格 458
- 五、村政の推移 460

- (一) 明治時代 / (二) 大正時代 / (三) 戦前・戦中(昭和元年より二十年まで) / (四) 戦後

第二節 衛生と医療

- 一、医師 473
- 二、医薬 476
- 三、伝染病と隔離病舎 477
- 四、種痘 478
- 五、衛生組合・保健協議会 479
- 六、座光寺国民健康保健組合 479
- 七、結核対策の概要 480

第三節 消防

- 一、消防の始まり 482
- 二、消防組織 482

- (一) 若連中時代 / (二) 火消組時代 / (三) 消防組の成立 / (四) 消防団

第四節 兵事

- 一、徴兵令と兵役 490
- 二、兵役優待会 491
- 三、在郷軍人会 492

第三章 戸籍、戸数・人口

第一節 明治初期の戸籍

- 一、戸籍簿の変化 495
- 二、戸籍区の設定と戸籍事務 496

第二節 戸数・人口の推移

第四章 天龍川原の開発

第一節 明治以後の天龍川原

- 一、はじめに 499
- 二、堤防の建設 500

- (一) 市田・座光寺連合堤防 / (二) 座光寺の堤防工事 / (三) 堤防の災害

- 三、水防組合・治水組合 504
- (一) 水防組合 / (二) 治水組合 / (三) 堤防費賦課金

- 四、喬木村との境の確定 509
- (一) 下羽場前阿島境界線目安 / (二) カスミ

- 五、川原の暗渠排水事業 509
- 六、河原・共和・唐沢地帯の耕地整理事業 510
- (一) 経過 / (二) 着工と記念碑建立

第五章 水利

第一節 竜西一貫水路

- 一、一貫水路の始まり 511
- 二、期成同盟会と計画の発展 512
- 三、起工式・着工 512
- 四、終戦のため中止 513
- 五、国営事業として再着工 514



六、残務の仕事 514

第二節 座光寺の地形と飲用水 ..... 515

第六章 座光寺山の経営 ..... 516

第一節 明治時代の山林問題 ..... 516

一、重賢山問題 517

二、明治以後の山林行政 521

(一) 入会山 / (二) 明治時代、国・県の山林野行政 / (三) 座光寺村  
の山林政策 / (四) 山に対する依存度の違い

第二節 施業案実施と反対運動 ..... 524

一、座光寺村の施業案 524

二、施業案反対運動起こる 525

三、その後の経過 527

第三節 戦中・戦後の山林経営 ..... 528

一、弓矢の沢入の境界の設定 528

二、弓矢の沢林道改良工事 528

三、座光寺山の砂防事業 529

四、堰堤事業 529

五、戦後に於ける山の利用状況 529

第四節 財産区議会による山林経営 ..... 529

一、三六災害の復旧 529

二、そのほかの事業 529

第七章 産 業 ..... 530

第一節 産業構造の変遷 ..... 530

一、明治初期から中期 530

二、大正・昭和・戦前期 532

三、戦後現代期 536

第二節 農 業 ..... 538

一、米作 538

二、麦作 540

三、その他の主要作物 542

四、蔬菜 542

(一) 大根

五、果樹 547

(一) 果樹栽培の始まり / (二) 伊那園芸協会加入 / (三) 伊那園芸協

会座光寺支部の変遷 / (四) 下伊那園芸協同組合座光寺支部の分裂 /

(五) 選果場の統合 / (六) 皇太子殿下・同妃殿下ご視察 / (七) 座光

寺村果樹栽培発展の遠因

六、畜産 554

(一) 馬 / (二) 牛 / (三) 豚 / (四) 山羊 / (五) 鶏 / (六) 兔 /

(七) 緬羊

第三節 蚕 糸 業 ..... 558

一、養蚕 558

二、蚕種製造 562

三、製糸業 563

第四節 養 鯉 業 ..... 567

一、江戸時代の養鯉業 567

二、明治以降の養鯉業 568

(一) 明治初年の養鯉 / (二) 養鯉の技術と水田養鯉 / (三) 止水池に  
よる養鯉 / (四) 養鯉專業業者 / (五) 良い飼い方 / (六) 販売

第五節 農地の所有状態と経営規模 ..... 571

一、明治から農地改革まで 571

(一) 明治からの耕地の所有状況 / (二) 自作農家と小作農家 / (三)

小作農家の推移／(四) 小作料  
二、農地改革 576

(一) 農地改革前の動き／(二) 第一次農地改革／(三) 農民開放指令  
(三) 第二次農地改革／(五) 座光寺村の農地委員会発足  
第六節 農業技術と肥料の進歩 ..... 579

一、農業 579  
(一) 米作／(二) 麦作／(三) 勸業統計／(四) 養蚕／(五) 蚕種製造／(六) 果樹／(七) 雑穀いも類／(八) 特産物／(九) 戦中戦後の言葉  
第七節 農業団体 ..... 584

一、農業技術の改良と勸業政策 584  
二、勸業会 584  
三、農会 585  
四、産業組合 585  
五、農業会 586  
六、農業協同組合 586  
第八節 商工業の趨勢 ..... 588

第八章 交通

第一節 江戸時代の交通 ..... 591  
第二節 道路 ..... 593

一、県道飯島・飯田線 593  
二、竜西線 596  
三、里道改修 601  
四、郡道飯田大鹿線(駅前通り)の改修 605  
五、道路と集落 608  
六、元善光寺停車場松尾線 609

七、戦後の道路改修 612  
第三節 鉄道 ..... 613

第四節 天龍川の交通 ..... 616

一、江戸時代の渡船 616  
二、明治以後の渡船と土橋 616  
三、阿島橋仮橋 618  
四、第二次阿島橋(有料橋) 618  
第五節 座光寺郵便局の開局 ..... 620  
第六節 竜東索道 ..... 620

第九章 村外への発展

第一節 海外移民 ..... 622

一、海外認識の深まりと海外渡航のはじまり 622  
二、北米への移民 622  
三、国策と満州移民 623  
(一) 満蒙開拓移植民／(二) 「満蒙開拓義勇軍募集要綱」／(三) 座光寺村から送り出した移民

第十章 教育

第一節 寺子屋 ..... 624  
第二節 小学校 ..... 626

一、麻績小校の時代 626  
(一) 舞台と学校場問題／(二) 旧麻績小校校舎の特徴  
二、麻績学校・鳥学校・座光寺学校 631  
三、座光寺尋常・高等小学校 632  
四、(一) 教育制度の変遷／(二) 校地の拡張・校舎の建築 633

五、座光寺小学校 635  
六、PTA 635

(一) 母の会 / (二) 父兄懇談会 / (三) 座光寺小学校PTA  
第三節 中学校 ..... 637

一、座光寺中学校 637  
第四節 青年教育 ..... 638

一、明治中ごろまでの青年教育 638  
二、農工補習学校 639

三、座光寺青年訓練所 639

四、座光寺青年学校 641

五、座光寺自治学園 643

第五節 社会教育 ..... 645  
一、公民館 645

第十一章 各種団体等

第一節 青年団 ..... 647  
一、祭礼講中 647

二、火消組時代 647

三、青年団 648

第二節 壮年団 ..... 652  
第三節 婦人会 ..... 653

第四節 自治協議会 ..... 655

編集後記 ..... 657

索引

図版索引  
系図索引  
表索引  
写真索引